



《志望茶碗 銘 なみの花》加藤景秋
1964年



《青白磁輪花茶碗》塚本快示
1983年

土岐市の行事として、公募展と並行して盛んに行われるようになった茶会では、美濃の作家の茶碗で抹茶がふるまわれました。茶陶に挑む作り手や茶の湯に親しむ機会が多いのは、茶陶「美濃桃山陶」の生産地としての歴史を持つ当市ならではの文化といえます。



《ヘルシア色絵胡姫文茶碗》加藤卓男
1996-2002年



《赤志野茶碗》林正太郎
2002年



《銀彩点紋鉢》伊藤慶二
1968年



《鳥獣戯面花瓶》中島正雄

5

近年の収蔵作品 2022年度新収蔵

2022年度は、資料購入や市民からの寄贈により計96点の現代作家作品が新収蔵となりました。



《楽》日根野作三
1955-64年

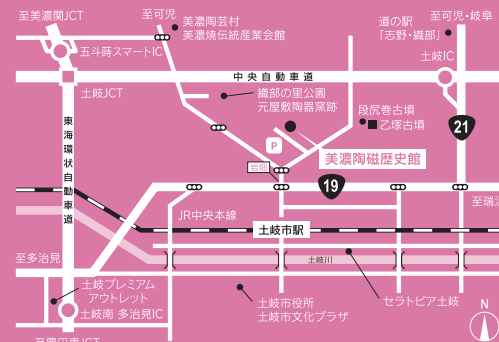


《陶板》中上良子
1970年代

関連イベント

担当学芸員による展示解説
10/14(土)・11/3(金・祝) いずれも14:00～

同時開催 11/1(水)～12/10(日) 保存修理完了記念
「崇禅寺墨跡公開 - 保存修理の技がつなぐ文化財」



土岐市美濃陶磁歴史館

TOKI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS

〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻1263 TEL.0572-55-1245 FAX.0572-55-1246
土岐市文化振興事業団ホームページ <http://www.toki-bunka.or.jp/history>



交通のご案内

〔鉄 道〕名古屋駅からJR中央本線「土岐駅」下車 徒歩約10分
〔自動車〕●中央自動車道「土岐IC」から約7分 ●東海環状自動車道「五斗時スマートIC」から約5分 ●東海環状自動車道「土岐南多治見IC」から約10分

現代陶

開館44年収集の軌跡II

作り手 たち

2023
9.9^{SAT} ▶ 12.10^{SUN}

会 場 土岐市美濃陶磁歴史館 第1展示室
開館時間 午前10時～午後4時30分 (入館は午後4時まで)
休 館 日 月曜日 (祝日の場合は開館)、
祝日の翌日 (ただし9/24・11/4は開館)、
10/31は展示入れ替えのため臨時休館
入 館 料 一般200円 (150円)、大学生100円 (70円)、高校生以下無料
障がい者手帳・医療受給者証 (指定難病、小児慢性特定疾病) を
お持ちの方と介助者1名無料 ※ () 内は20名以上の団体料金
企 画 公益財団法人土岐市文化振興事業団

写真:《エマイユ顔》中上良子 / 《少女図鉢》小谷陶磁器研究所 / 《白釉黒格子掛大鉢》濱田庄司 / 《家一人》伊藤慶二
書画類の展示は10/29まで

土岐市美濃陶磁歴史館

TOKI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS

〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻1263 TEL.0572-55-1245 FAX.0572-55-1246
土岐市文化振興事業団ホームページ <http://www.toki-bunka.or.jp/history>



開館44年を迎えた当館では新たな博物館への建て替えを前に、令和5年度は年間を通じ、当館の資料収集の軌跡を振り返る展覧会をシリーズで開催しています。第1弾では当館の収蔵資料の核となる美濃桃山陶をテーマに、様々な視点からその造形の魅力に迫りました。

第2弾となる本展は、「現代の作り手たち」をテーマに当館の美術工芸コレクションが形成されてきた軌跡を振り返ります。当館の美術工芸コレクションは、初代土岐市長二宮安徳が収集した二宮コレクションを礎に、土岐市政のあゆみと深く関わり合いながら形成されてきました。陶彫展や現代茶陶展といった土岐市主催の公募展受賞作品や友好都市イタリアファエンツァの招待作家作品からは、土岐市がやきもののまちとして産業的側面に捉われず、文化芸術振興に目を向けてきたことがうかがえます。他方、美濃桃山陶生産の中心地としての歴史を背景に、茶陶制作に取り組む市内外の作家作品の収集も積極的に行ってきました。この地と関わり、土の可能性を探り、形にしてきた現代の作り手たちの作品をお楽しみください。

1 美術工芸コレクションの礎 二宮コレクション

初代土岐市長 二宮安徳（在職1955-75）が収集した400点を超えるコレクション。美濃の陶芸家のほか、岐阜県出身の画家、民藝作家など様々な作り手たちとの交友をもとに収集されたこれらの作品は、市民の芸術振興のため、市に一括寄贈されました。



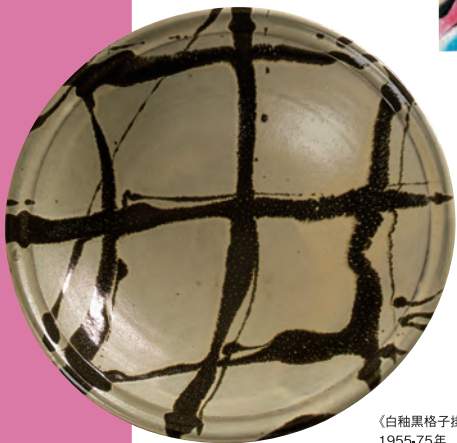
《風絵》横方志功
1955-73年
※展示期間：9/9～10/29



出光美術館にて（左から小山富士夫、濱田庄司、二宮安徳）1967年



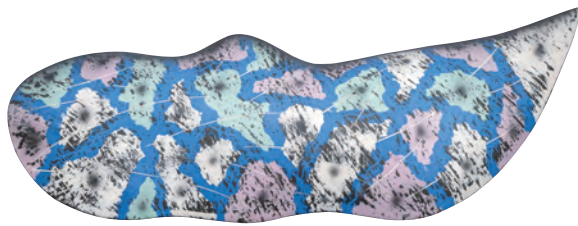
《種子鳥茶碗》小山富士夫
1973年



《白釉黒格子掛大鉢》濱田庄司
1955-75年

2 収集 2つの視点 寄贈と購入

博物館が資料を収集する手段は、「館独自の予算をもとに購入する」と、「市民から寄贈を受ける」ことの大きく二通りがあります。美術的に評価されたものから、地域資料として地元で大事に残すべきものまで様々な性質の資料を収集することで、美濃焼の歴史・地域の歴史を後世につないでいきます。



《EMBRIONE (胚珠)》
ジョバンニ・チマッティ
1992年



《垂直の枝》カルロ・ザウリ
1976年



《銀彩花入》岩佐昌昭
第14回現代茶陶展大賞
2022年



《七彩茶入》アグネス・フス 第14回現代茶陶展奨励賞
2022年



《萌黄金欄手草花文水指》
加藤幸兵衛（五代）



《掻き落し花器》小谷陶磁器研究所
1951-58年



《伊羅保釉魚紋小皿》小谷陶磁器研究所
1951-58年

3 イタリア ファエンツァとの交流

1979年、土岐市はイタリアのファエンツァ市と姉妹都市となりました。以来、使節団の相互派遣などを通して、歴史ある陶磁器産地同士の絆を深めてきました。

4 文化芸術を育む 公募展の開催と土岐市織部の日

土岐市では、陶磁器産地ならではの公募展をいくつも開催してきました。1986年に始まった日本現代陶彫展、そこから派生したユーモア陶彫展は、陶磁による彫刻をテーマとした全国的にも珍しい公募展でした。2006年の開催が最後となりましたが、市中に展示された作品を今でも楽しむことができます。また、1989年には、織部焼の文献上の初見とされる慶長4（1599）年2月28日に由来して、2月28日を「土岐市織部の日」と制定しました。以来、記念事業として織部の心作陶展や現代茶陶展が始まります。特に現代茶陶展は、茶陶をテーマとした全国規模の公募展として、現在でも多くの作り手の登竜門となっています。



《問自考》柴田節郎 第1回ユーモア陶彫展優秀賞
1997年